

## 佐木島パワー

私達の住んでいる三原市には「佐木島」という島があります。その島は私の通う中学校区の一部で、小学生の時に社会見学に行った事もあります。静かで、穏やかな雰囲気だと感じた島は、年に一度だけ島中が熱くなる日があるのです。

八月二十日に行われた「トライアスロンさぎしま」に、ボランティアの一員として参加した私は、目の前で繰り広げられる光景に心を奪われました。大会当日は真夏日で、立っているだけでも汗が流れました。しかし、何百人もの人達が選手として応援者として、島にやってくるのです。さらに驚いたのが、多くの島の人達が選手を応援しようとして駆けつけていた事です。家族や知人が出場する訳ではないのに、「がんばれー。」と一生懸命に応援している姿があちらこちらで見られ、選手達も笑顔になってスタートを切りました。

水泳、自転車での島四周、最後に島を一周走る選手達は限界と闘っているようでした。そんな時も人々の声の音が選手達を元気にします。「あんなならもつといける!!」と激励する人もいました。日本中から集まった選手が、佐木島の人達に応援される光景を目の前にして「佐木島パワー」を感じました。

私は佐木島の新たな魅力に出会いました。「誰かのために」一生懸命に応援する人。その背後には、瀬戸内の美しい多島美を堪能できる風景があります。これが佐木島パワーの源なのだと思います。

まだ佐木島に行った事のない方はぜひ佐木島へ足を運んでみて下さい。きっと素敵な笑顔とパワーをもらえることでしょう。



# わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します  
— 連載第31回 —

## よさの花を咲かせたい

ぼくは、児童会の副会長をしています。ぼくたち児童会役員四人は、深小学校のみんながよりよくなるように話し合いながら取組を進めています。

朝、ぼくたちは校長先生と玄関に立ち、学校に来る人たちに大きな声で名前を呼んで、「おはようございます。」とあいさつをしています。元気に自分からあいさつしてくれる人もいますが、ほとんど聞き取れないくらい小さな声で返事する人もいます。だから、あいさつのポスターを作ったり、川柳を募集したりして、全員が大きな声であいさつできるようにがんばっています。

また、小さな学校なので、みんなが仲良くできるように、児童会遊びをできるだけ多くしています。一学期の終わりには、体育館で「ジャンケン列車」をしました。一年生から六年生までみんなでジャンケンをして、負けた人が勝った人の背中についてどんどん列車のように長くつながるゲームです。最後には全員でひとつの長い長い列車ができました。みんなにこにこ笑顔になりました。

八月の登校日には、児童会が計画し、ちぎり絵の千羽づるのかべ飾りを作りました。校長先生に戦争の恐ろしさについて話していただいた後、平和を願って全員で手分けして作品を作りました。高学年が低学年にやさしく教えながら、ていねいに作ることができました。

深小学校は、他の学校と比べて小さな学校ですが、一人一人が元気で、仲の良い学校です。もっとそのよさの花を咲かせるために、ぼくは児童会の仲間とがんばっていききたいと思います。

